

# 植物防疫情報第1号

令和3年5月26日  
岡山県植物防疫協会  
岡山県病害虫防除所

## ブドウ灰色かび病の防除を徹底してください

岡山県病害虫防除所が5月21日に行った巡回調査によると、ブドウ灰色かび病の**花穂での発生圃場率は27.3%（平年0%）と高くなっています。**直近の10年間では5月時点での発生を認めておらず、**発生時期も早くなっています。**

広島地方气象台による向こう1カ月の予報（5月20日発表）によると、前線や湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多いとされており、今後も発病を助長する気象条件が継続すると予想されます。特に、開花期前後に降雨が続くと、発生が多くなる恐れがありますので、**圃場をよく観察し、花穂の発病部位の除去と開花期前後の予防的な薬剤散布に努めてください。**

（防除上の参考事項）

- （1）本病原菌は、前年の被害残さ等で越冬し、翌春、形成された胞子が風で飛散して第一次伝染源となる。病斑上では胞子が形成され伝染源となり、二次伝染が繰り返される。
- （2）本病は、開花期前後が防除適期であるため、開花直前及び落花直後に薬剤散布を実施する。
- （3）枝の過繁茂を避け、園内の風通しを良くする。落花後、幼果に付着した花冠は取り除き、発病した花穂や果房は早めに取り除いて処分する。
- （4）農薬の使用にあたっては、果実の果粉溶脱に対する注意や収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等への農薬飛散防止策をとる。
- （5）最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>）で確認できる。



図1 ブドウ灰色かび病の症状（花穂）



図2 ブドウ灰色かび病の症状（穂軸）

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

